



新小山市市民病院ニュースレター

Shin-oyama City Hospital News letter

Vol.30

1 副院長挨拶 ～ ニューノーマルな生き方とは？ ～

昨今、コロナの感染拡大に伴い、ウィズコロナとしてのニューノーマルな生き方が求められています。医療従事者の皆様方もこれには大変苦労されていると思います。

3月から歓送迎会、懇親会や研究会がなくなり、学会もWeb開催となり人と出会う機会が極端に減りました。ある保険会社の調査では、栃木県内の交通事故の件数が10年前の50%以下に減少したそうです。当院は、幸いにしてそれほど深刻な影響は今のところ出ていませんが、今後どのように変わっていくか全く予想できません。ただ、この数ヶ月をみて超高齢化社会の現在、その他の病気にかかり病院を受診する方はそれほど変化していないということです。心筋梗塞、脳梗塞、そして整形外科で言えば大腿骨頸部骨折などは当院でも数字的な変化はごくわずかです。関連する回復期の病床を持つ病院でもそれほどの落ち込みは栃木県内ではないようです。

外出自粛の現在、東京ではないけれど北関東の栃木県民はどこまで行動範囲を広げて良いのか苦慮する人が大半です。溜まるストレスと感染のリスク、この狭間でどのような生活を送っていくのか？異なる価値観の中で、皆さんその答えを模索している毎日でしょう。

私個人は、10年ほど前からガーデニングでバラなどを栽培しており、毎朝仕事の前に1～2時間水やりなどの世話をしてから出勤していました。昨年に台風19号により壊滅的な被害を受けた我が家の庭も、緊急事態宣言の時期が貴重な修復の時間となりました。

周りからは、「忙しいのによく睡眠時間を削ってまで出来るね。」と言われますが、花を眺めながらの気分転換と水撒きをしながらの手術のイメージトレーニングは欠かせません。息子夫婦も東京から5、6月是一緒に生活して、ある意味新鮮な2世帯同居でした。

プライベートの大半の時間を家族と過ごす、ニューノーマルの生き方は家族の絆を深める良い機会なのかもしれません。

今後とも変わらず、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和 2年 9月 新小山市市民病院 副院長・整形外科部長 東 高弘

2 TOPICS ～ コンテナ購入！ ～

当院では8月から救急入口前にコンテナを設置し、発熱患者さんに対応するための診察室を設置いたしました。発熱患者さんの導線を分けし、重症患者さんと新型コロナ感染症疑い患者さんが混在しないように努めております。

「感染しない・感染させない」意識をもって対応していきます。



目次:

副院長挨拶	1
医師紹介・Covid-19	2
決算報告	3
お知らせ	4

ハイライト

- 新型コロナウイルス感染予防策として、当院北側に診療用コンテナを購入しました。
- 令和元年度の決算を報告させていただきます。
- 患者支援センターからは、紹介・逆紹介率の報告をさせていただきます。
- 7月16日に地域完結型 医療・連携の会WEBセミナーを開催しました。

分からないこと、質問等ございましたら、いつでも、医療連携室までご連絡ください。

ポットラック カンファレンス 地域完結型 医療・連携の会

今年度の開催予定日をお知らせいたします。

新型コロナウイルス感染拡大予防のため、詳細は、開催が決まりましたら再度個別にご案内させていただきます。

たくさんのご参加をお待ちしております。

ポットラック カンファレンス

偶数月、第1山曜日

19

※ お休み中です ※

お申し込みいただけます。



地域完結型 医療・連携の会 ～ WEB ライブセミナー ～

奇数月、第3木曜日
19:15～

9/17
11/19、1/21、3/18



ドクターの紹介

7月採用医師を紹介します。



麻酔科
副部長
當重 一也

令和2年7月から麻酔科に着任しました當重一也（とうじゅうかずや）です。新潟県出身で自治医科大学を卒業後、縁あって新潟大学麻酔科、福島県立医大麻酔科でトレーニングしながら両県内の地域医療機関にも勤務してきました。僅かばかり一般内科診療の経験がありますが、麻酔科医としての業務を中心にしてきました。

手術を含めた超急性期医療は地域にとって不可欠なものだと思いますので、当院でその発展に少しでも役立てればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

新小山市民病院のコロナ対策と皆様への御願い

本号では、当院の新型コロナ対応を振り返ってみました。

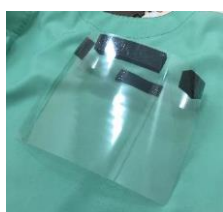
昨年度末は、過去の職場における感染拡大事例から、職員の感染対策と健康管理を進め、同時に、入院調整とインフルエンザによる面会制限を既に実施していましたが、その時期から新型コロナの流行も始まりました。その状況を受け、当院では、病院職員による来院者向けのマスク装着・手指衛生促進、面会制限管理、一般外来受診者と疑似症・発熱者の受診・動線分離等を開始し、感染防止用個人防護具の着脱動画や、自治医大附属病院感染制御部長によるコロナ解説及び感染対策上の注意点動画等も作成しました。

その後5月頃には、世の医療材料不足が勃発しましたが、手作りガウン・フェイスシールド等を職員が団結して制作して、窮地を乗り切りました。現在では各種防護具が潤沢に納品されています。防護具は、県南健康福祉センター・医師会・市役所・近隣クリニック・企業及び個人の方からの寄附にも助けられ、大変感謝しております。

接遇面では、面会制限下での患者及び家族の不安軽減を目指し、職員による当番制での生活必需品受渡し補助やipadを利用した顔の見える面会を実施しています。

当院は、新型コロナにおける疑似症指定病院、また帰国者・接触者外来を受ける地域中核病院として、PCR及び迅速検査総数は8月末時点で500人を越え、他にも5月から小山地区外来ドライブスルーに看護師が検体採取介助参入、8月から夜間休日診療所で臨床検査技師によるPCR検査実施など当院の医療従事者が積極的に協力支援を行っています。こうした経緯を経た当院から医療関係の皆さんへの御願いを最後に申し添えます。

- ・新型コロナは、過度に恐れず、しっかりガードして下さい。肝心なことは、手洗い・アルコール消毒を怠らない事です。標準予防策と状況に応じた経路別予防策により、然るべき根拠がないうちは、ガードを解除しないことです。
- ・具合の悪い患者が、いつ・どこを受診するかは、わかりません。緊急時の応需体制に御協力を御願い致します。



令和元年度決算について

～独法化後 7 年連続黒字により、コロナ禍に負けず安定運営を維持～

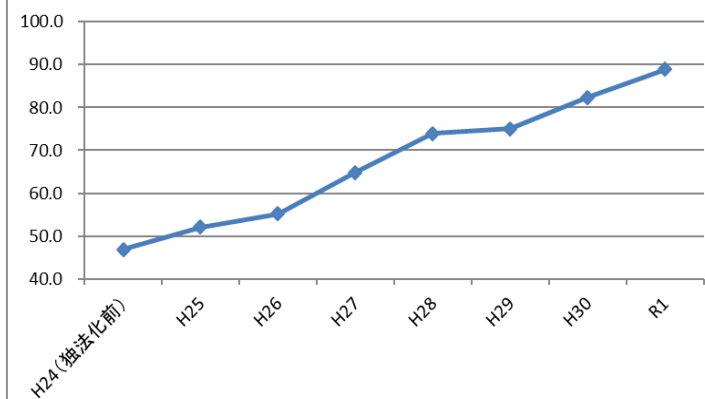
当院は、7 年前の地方独立行政法人化後、市民の皆様及び地域の医療関係者が望む地域の中核病院として、“**市民病院なら安心**”との期待に応えるため、病院としての高度医療機能の充実と、地域のかかりつけ医との連携、また「**断らない救急**」をスローガンに、院内の体制づくりに取り組みました。

新病院への移転新築も含め、一步一步の着実な歩みを経て、入院・外来患者数や救急車受入患者数が毎年増加する中、地域の皆様から次第に病院として良い評価をいただくようになり、課題であった医師・看護師の確保も順調に進み、人員充実の結果、新病院の機能を有効に活用できるようになりました。魅力的な病院として、患者はもとより、スタッフも惹きつける「**マグネットホスピタル（磁石の病院）**」という当院の目標が、実を結びつつあると感じています。

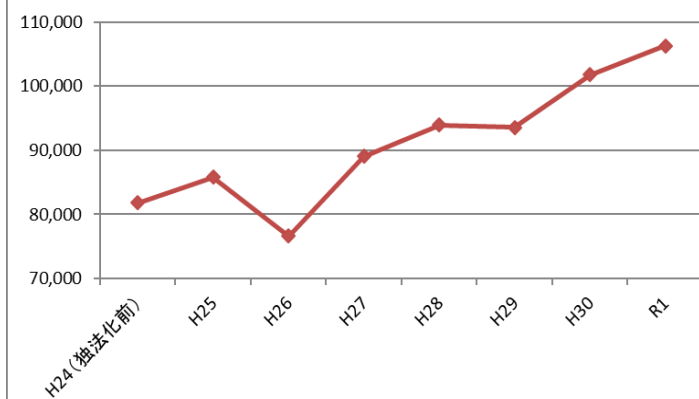
その結果、入院患者数は 10 万人を超え（1 日平均 290 人／300 床）、病床稼働率も 96%以上となり、過去最高の医業収益を確保し、独法化後 7 年連続の黒字経営を達成することができました。

令和 2 年度は、コロナ禍により、収支面も含め、大変厳しい病院運営を強いられておりますが、前年度までの黒字経営による蓄え（剰余金）を活用し、また地域の皆様方の温かい御支援にも支えられ、**病院の安定運営を維持**し、感染対策にも万全を期しております。今後ご期待に応えるべく、地域に根差した市民の皆様のための病院として、医療機能の充実に努めてまいります。

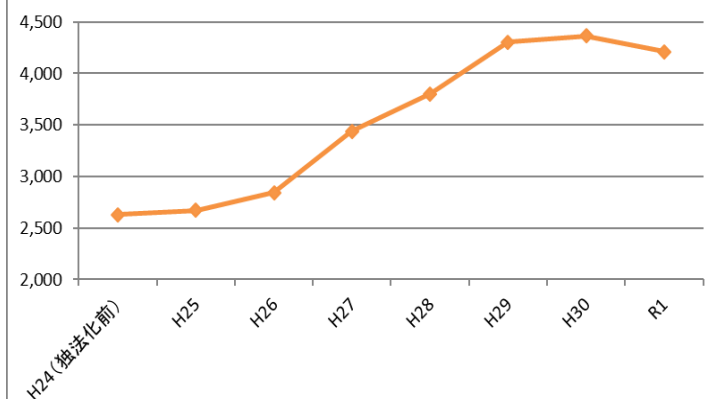
医業収益(億円)



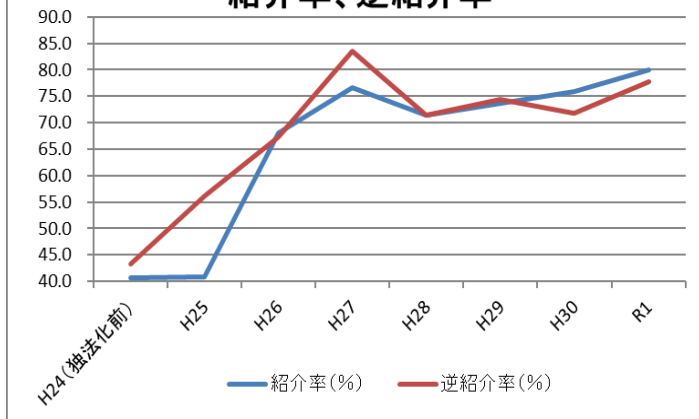
入院患者数(人)



救急車搬送患者数(人)



紹介率、逆紹介率



患者支援センター

(受付時間 平日 8:30~17:15)

医療連携室：

0285-36-0252

(緊急の患者紹介・転入相談・
その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル：

0285-36-0254

(もの忘れ外来・内科・神経
内科・循環器内科の受診予約・
胃カメラ・心エコー・腹部エコー
などの検査予約)

医療相談室：

0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関するこ
と・MSWに連絡・その他、外来
患者の各種相談に関すること)

FAX：

0285-36-0352

メール：

renkei@hospital.oyama.tochigi.jp

※メールでも受付しております。

地方独立行政法人 新小山市市民病院

〒323-0827

栃木県小山市神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 (代表)

ホームページ

<http://hospital-shinoyama.jp/>

看護師採用サイト

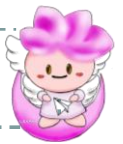
<http://hospital-shinoyama.jp/nurse/>

Facebook

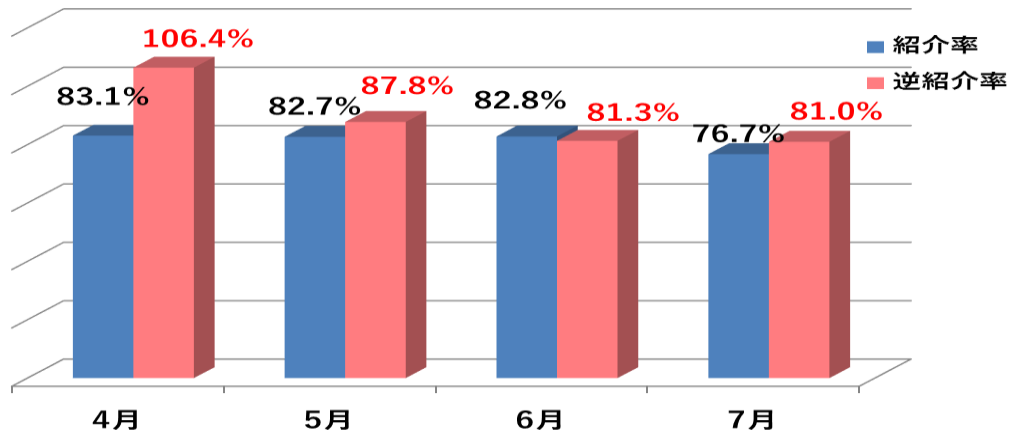
<https://www.facebook.com/shin.oyama.city.hospital>



患者支援センターからのお知らせ



いつも当院運営にご理解・ご協力頂きありがとうございます。



7.16、第 26 回 地域完結型医療・連携の会 WEB ライブセミナーを開催しました！



過去 2 回、新型コロナウイルスの影響により見合わせていました当
会を、zoom を使った WEB ライブセミナーとして開催いたしました。
会では、島田病院長が自室から zoom でのあいさつを皮切りに、座長
の栗原副院長が進行役となり、外科田中医師、心臓血管外科佐藤医師、
小児科橋本医師、による症例報告がそれぞれ行なわれました。

質問は WEB 参加者からチャットで、会場参加者からメモによる質問
が行なわれ、いままでとは違った「新しい生活様式」を体感しました。

新市民病院関係を除く参加者は、WEB が 29 名、会場が 4 名と WEB
に注目が集まっている結果となりました。

初めての試みとして手探り状態のなかで実施しましたが、おおむね
良好に進行した？と感じております。改善点もまだまだあり道半ばで
ですが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

コロナ禍で厳しい状況が続きますが、またいつの日か会場でお会い
できることを願っております。



院長あいさつ



↑ どんどんと参加者が受け付け
てきました。



↑ 報告する先生方も、
いつもと違ったやり方
で少し緊張ごみです。

